

御嶽山について【参考】

1 御嶽山の概要

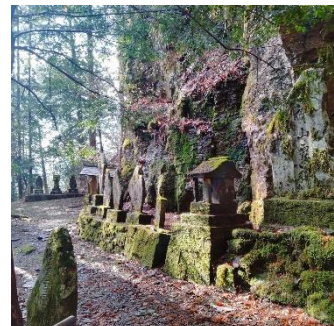
御嶽山は、活火山の独立峰であり、南北約 3.2km にも及ぶ長い頂稜と、剣ヶ峰、継母岳、継子岳、摩利支天山、王滝頂上、飛騨頂上の 6 つの峰を有した山です。頂上の剣ヶ峰は、火山としては我が国で富士山に次ぐ標高（3,067m）です。

各噴火口から流出した溶岩や爆発、陥没など火山作用により形成された独特な火山地形を有しており、火山斜面には、かつてのマグマ噴火による溶岩流の中に溪谷や美しい滝が連続して成立しているほか、昭和 59 年の長野県西部地震による大崩壊の跡（御嶽崩れ）が現存しています。

独立峰であることにより植生の垂直分布を連続的かつまとまった形でみることができ、山頂付近にはオンダテやハイマツ、コマクサを始めとした高山植物群落が広がり、ライチョウやオコジョ等の希少な種の生育地となっています。

日本を代表する霊山のひとつとして、古来より山岳信仰や修験道の拠点として崇められてきました。江戸時代には御嶽講が全国に広がり、多くの人々が登拝に訪れるなど、精神文化と地域文化に深く根ざした存在です。

現代においても「心のよりどころ」としての御嶽山の存在は色あせることなく、自然と人々の暮らしを結びつける象徴であり続けています。



御嶽古道

2 自然環境と象徴的な生き物

- ・ライチョウ（雷鳥）：氷河期から生き延びた「生きた化石」とも呼ばれる高山鳥類。御嶽山の厳しい自然環境を象徴する存在。



- ・コマクサ（駒草）：「高山植物の女王」と称される可憐な花。岩場に根を張り、御嶽山の夏を彩る。



- ・活火山としての生命力：御嶽山は現在も活動を続ける活火山であり、大地のエネルギーと自然の循環を象徴しています。火山活動は畏敬の念とともに、地球の鼓動を感じさせる存在として、御嶽山の神秘性をさらに際立たせています。国立公園としての魅力を守るため、火山防災体制の整備と安全情報の提供が重要です。



三ノ池

3 景観と魅力

御嶽山はその雄大な姿から「日本の名峰」のひとつに数えられ、四季折々の表情を見せます。

- ・新緑・高山植物・紅葉・雪景色：季節ごとに変化する自然美。
- ・澄んだ空気と星空：御嶽山周辺は国内有数の星空観測地であり、夏には天の川が肉眼で見えるほど。星空は「宇宙とのつながり」「自然の神秘性」を象徴します。

・火山地形と地熱の風景：溶岩流跡や噴気孔など、火山活動の痕跡が随所に見られ、地球のダイナミズムを体感できる景観も魅力のひとつです。御嶽山の西側には約5万4千年前の噴火による溶岩流が現存し、溶岩流によって形成された溪谷と多数の滝により、美しくかつ迫力ある景観を有しています。



溶岩流により形成された特徴的な山麓の景観



溶岩流の末端部にある柱状節理「巖立（がんだて）」



根尾の滝



高層湿原として希少な自然環境である田ノ原湿原



清滝



新滝

4 ロゴ・キービジュアルの参考視点

- ・雄大で調和のとれた山岳景観
- ・溶岩流により形成された火山地形（滝・溪谷）
- ・霊山としての歴史的・文化的象徴性（御嶽信仰・御嶽講・御嶽古道）
- ・ライチョウ・コマクサなど固有の自然のシンボル
- ・活火山としてのエネルギーと畏敬の念
- ・星空に象徴される「宇宙とのつながり」「自然の神秘性」